



7月の長雨、8月～9月上旬の酷暑を乗り越え 秋冬野菜づくりに愛情込める！

研修農場新聞

(公財)農林水産振興財団
八王子研修農場
(発行責任者)
農場長 小寺孝治
(無料)

研修農場では、トマトやキュウリなどの夏野菜の収穫を終えると、すぐさま秋冬野菜に向けて土づくりや植え付けなど、様々な秋冬野菜の作付けが始まる。

天候を読みながら

東京でのニンジン栽培は

普通7月20日前後に種まきをするが、今年は長雨の影響で多くの農家は種まきができなかった。研修農場では、ちょっとした雨の合間で土壌水分は多めであったが種まきを強行し、今は間引きや追肥も終え、ほぼ順調に生育している。

キャベツやブロッコリー、カリフラワーは8月下旬に苗を定植。酷暑が厳しく、土はカラカラに乾いていたので、定植後は散水チューブで灌水を行う。すると直ぐに雑草が発生してくるのでたびたび除草、今は一回目の追肥と培土を終え、後はしっかりとした病害虫対策を行う必要がある。
ダイコンは9月上旬から毎週計3回種まきを行った。この時期は芯食い虫となるハイマダラノメイガが大敵となるためすべて防虫ネットを被せている。

トを被せている。

秋ジャガは暮時期に生き生きとしたジャガイモが採れることから人気であるが8月末の残暑が厳しい中で植え付けるため腐敗するリスクがある。農場でも挑戦しているが、3、4割が腐敗、植え付け後にもう少し気温が低ければと落胆。

タマネギは9月下旬に直播栽培(約600㎡)を計画。長期栽培となるため、農場の大敵である雑草対策にバスマイトの敵内処理を実施。この処理も雨降り後適度な土壌水分が決め手となるが、結果は乞うご期待。

いま研修生たちは

●農業次世代人材投資事業の準備型(就農に向けて必要な技術等を習得するために研修を受ける方に交付)に申請した研修生はすべて

交付が決定。

●8月20日には農業会議の松澤氏から都内農地の現状や賃借の難しさ等について講義を受けることも、アグリパークでは都内の農家さんが作った野菜のラベル貼りや陳列、対面販売での売り方等の研修を行った。

●卒業後の就農相談にあたり、9月の段階での研修生の就農希望地を聞いたたり、農業会議や農業委員会、JA等の協力を得て徐々に農地情報の収集を始める。

●9月からは市内眺町にある倉庫棟(冷暖房完備)を借りることができ、座学や収穫調整作業、打合せ等もできるようになった。

●研修生の圃場での働きぶりを見ると、すでにトラクターやマルチャーといった農業機械は誰でも使いこなし、自ら進んで機械類を動かしている。畑の中の雑草も自主的に取るようになってきた。そして、栽培中の作物の様々な疑問はその場で指導員らに聞き、熱心にメモを取るなど、就農に向けてさらに一段と真剣に取り組んでいる。

専用HP間もなく開設

東京農業アカデミー八王子研修農場のホームページが10月から開設予定。

【農場スナップ】



④来年の畑作りのため緑肥のソルゴーをすき込む



③ニンジン畑の除草・間引き



②ハウス作りもお手のもの



①キャベツ畑での除草作業

8月～9月の主な出来事・作業

(8月)

- ・4日 農業次世代人材投資事業～審査会面接2名出席
- ・7日 フードバンク寄付
- ・11日 農場に多摩産材の看板を5基設置
- ・20日 アグリパークにて販売研修
- ・25日 キャベツ、ブロッコリーの定植

(9月) …八王子市眺町の倉庫棟を活用

- ・1日 町田市農業視察、2日 練馬区農業視察
- ・3日、10日、17日 ダイコン播種
- ・4日、7日、11日、14日、18日、25日、28日フードバンク寄付
- ・8日 交通安全講習会(立川庁舎)
- ・15日 麻布大学(獣害対策講義)

現ニンジン畑→



⑥秋冬作ではダイコンやタマネギ、レタスのマルチャーは皆な上手に使いこなす



⑤アグリパーク開店前の商品陳列、業者からも親切に商品指導を受ける



【8月からの天候】

8月は気温が高く、東日本では平年差+2.1℃で、1946年の統計開始以来、8月として1位の高温。9月も上旬までは平年より高温で推移したが、下旬からはほぼ平年並みで推移。今後発生する台風にも注意が必要だ。

【その他】

・第3圃場において東京都エコ農産物のエコ100に準じた野菜5品目の作付けを8月から始める。
・9月16日に新たな菅内閣が発足。菅氏は秋田のイチゴ農家生まれ。